

関東教区 KKS in 沖縄

第8回9条世界宗教者会議～ユースプログラム～

by 沖縄エキュメニカルセンター



時・2024年2月19日(月)～22日(木)

於・エナジック沖縄国際ユースホテル



カトリック安里教会



1日目：2月19日(月)17時～

エナジック沖縄国際ホテル集合・チェックイン
夕食～ステーキ in ジャッキーステーキハウス～
交流の時～自己紹介～



2日目：2月20日(火)

朝食

現地研修(その他、バス内など折りに触れて説明を聞く)

辺野古ゲート前座り込みテント

道の駅かでな

昼食：泊城公園(渡具知公園にて)～お弁当～

チビチリガマ

恨之碑

夕食～Joy full～

基調講演



岡本厚さん「沖縄から学ぶ～戦争の時代の中の『命こそ宝』～」

3日目：2月21日(水)

全体会①

弘田しずえさん「公正な平和と非暴力～諸宗教9条国際会議」

ニコラスメレさん「9条の影響」

全体会②

クレア・カーターさん

ソンガンホさん「戦争や軍隊のない世界のために」

昼食～お弁当～

アメリカンビレッジ

全体会③～沖縄からのメッセージ～

具志堅貞子さん「沖縄戦体験者証言」

内原英聡さん「石垣島を含む先島での自衛隊配備と平和～琉球弧の要塞化～」

夕食～A&W～

祈りの時～振り返り・ユースの祈り作成～



4日目：2月22日(木)

ユースプログラム報告及び祈り(末尾記載)

オプションツアー

平和祈念公園(平和の礎・平和祈念資料館)

鎮魂の塔

夕食～Joy full～解散



引率：玉置 千鶴子(長岡教会)

第8回9条世界宗教者会議(以下、本会議)に際して沖縄エキュメニカルセンターによる第1回ユースプログラム(～40歳)が開催されました。2023年度の関東教区KK Sは昨年の沖縄ツアーに引き続き、上プログラムに参加する形で開催されました。関東教区からは高校生3名・大学生1名の計4名、及び引率として池田純平教師(村上教会)・玉置千鶴子(長岡教会)が参加しました。他にも各地から大学生や社会人合わせて7名、計11名の参加者と共に3泊4日ユースプログラムとして濃い時間を過ごすことができました。また金井創教師(佐敷教会)をはじめとした現地スタッフの方々や関東教区宣教部委員長の飯塚拓也教師(竜ヶ崎教会)をはじめとした宣教部の方々、何より世界宗教者会議に出席された各国・各宗教者の方々との出会いや学びの時を持つことができましたことを感謝します。

1日目こそは緊張もしていた一人ひとりですが、交流の時(全員が全員の名前を覚える・言えるまでは帰れない自己紹介ゲーム…笑)を通して、お互いに名前を呼びあえる2日目以降を迎えることができました。

2日目は本会議と合流し、夕方まで現地研修・バスツアーが実施されました。辺野古(キャンプシュワブ)ゲート前座り込みテントでは基地建設阻止のための抗議活動のこれまでと現状、また各団体挨拶を伺いました。1997年に辺野古に米海兵隊滑走路の建設計画が発表され、2004年には市民の抵抗運動により政府は当初の計画を断念。しかし海兵隊基地キャンプシュワブに隣接する沿岸の埋め立て計画に変更・建設を強行し、2014年から埋め立て工事が始まりました。そして今…2023年度末完成予定だった辺野古の埋め立て・新基地建設が未完成であることは抗議活動の成果であると言える、一方で海上や陸上(埋め立て用土砂採掘・搬入)など、抗議活動が数か所にわたるために幅広い運動展開が必要となっており厳しい現実があることも共有されました。道の駅からでは東洋最大の米空軍基地である嘉手納基地を見学し、爆音被害の現実に触れました。その後、泊城公園(渡具知公園)で昼食と共に米軍上陸の地碑にも足を運びました。チビチリガマでは強制集団死が起こった一方で近隣のシムクガマでは死者が発生しなかった…この違い・極限状態で何が運命を分けたのかを考えさせられ、事実を知ることの大切さに触れました。恨之碑では120万人以上もの朝鮮人が日本政府によって強制動員された現実・加害者性を改めて突きつけられました。特に今回は世界宗教者会議にあわせたユースプログラムとして様々な背景を持つ人達と出会うことができた中で折に触れてそれぞれの背景や思いを分かち合うことができたことはこれまでにない機会となったように思います。夜は基調講演を通して沖縄戦の教訓として導き出された「命こそ宝」、この言葉・祈りに触れました。

3日目も本会議と合流し全体会にて、4名の方の発題を受けました。午後はユース独自プログラムとして北谷にあるアメリカンビレッジにて自由時間を過ごしました。沖縄の経済は基地があるから成り立っている?!のではなく、返還された地で確かに雇用が発生している事実と、基地(爆音)のただ中で過ごす現実に触れることができました。夕方は再び本会議と合流し、2名の方から沖縄戦(過去と現在)について沖縄からのメッセージをいただきました。夜は再びユースプログラムとして祈りの時を過ごしました。3日間を振り返り、それぞれが思ったこと・考えさせられたことなどを分かち合いながら共に1つの祈り(末尾記載)を作成しました。違うからこそその難しさが、終了予定時刻がどんどん伸びていく…というのは3日目の夜にして辛さもありましたが、それ以上に「それはどういうこと?」「自分はこう思う」とこれまで以上に深く言葉を交わす時間を持つことができたことは何よりも大切な時を過ごすことが出来たように思います。

4日目も本会議に合流し、ユースプログラムの報告及びユースの祈りを共に祈りました。若い世代である私たちが事実を知り平和をつくり出すことができるように、そして私たちもまた次の世代へと伝えていくことができますように…そのことを通して平和が来ますようにと改めて祈り願います。

～オプションツアー&夕食にてさようなら～

大和田 陽生(那須塩原教会)

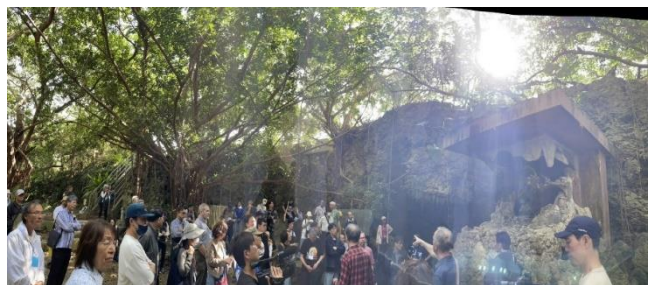


私は2月 19 日から5日間、世界平和会議のユースプログラムに参加する為に沖縄に行きました。ユースプログラムで、特に印象に残っているのはバスで戦争や基地問題に関わる場所を巡ったことです。まず一番最初に驚いたのはバスで走っていると、至る所に米軍基地があることです。日本にある米軍基地の全体の約8割が、なんと沖縄にあるということです。そして、現地の方から、米軍基地建設が、沖縄の太古の昔から現在まで残る貴重な自然を破壊しているということを知りました。このことを聞いて、私は深い憤りを感じました。その後に訪れたチビチリガマでは、米軍に追い込まれた島の住人達が、強制的に自殺を強要されたという、痛ましい話を聞きました。そして、島民達は自分達を守ってくれるはずだった日本軍からも酷い扱いをされ、わざと危険な場所へと追い出されていたということを知り、なんの関係もない人々の命を奪っていく戦争に対して強い怒りを覚えました。

また、平和会議では、戦争経験者の方や、沖縄県議員の方から、戦争時の沖縄の様子、そして、現在の沖縄の様子について聞くことができました。そして、衝撃を受けました。自衛隊は、沖縄で有事が起きた際に住人を守らないと明言していたのです。自衛隊は、国民を守る為にあるはずで、その国民を守る義務を放棄すれば、それはただの軍隊です。沖縄の問題は我々の生活にも直結する深刻な問題なのだと、この時、思いました。

私は今回のプログラムで、多くのことを学びました。その中で、最も大切だと思うことは、武力に対して、武力で刃向かわないことだと思うのです。攻撃に対して、やり返しては、再び反撃を喰らい、永久に終わらないイタチごっこのような状態に陥ってしまうのです。そしてその間に罪のない多くの尊い命が奪われてしまうのです。沖縄には「命こそ宝」という言葉があります。命は尊いもの。そんな当たり前のことを理解していれば、人を殺すという恐ろしいことはできないはずです。聖書にも、隣人を愛せという言葉があります。憎しみは何も産まず、尊き命を奪うだけです。たとえ敵でも愛することができれば、争いの連鎖は止めることができるのではないのでしょうか。しかし、いま、この国がしていることは多くの尊い命を奪うことに他ならないのです。ですが、殆どの人はこのことを知らないでいます。まず、私達の様な若者が、この問題が如何に重要であるのか、そして、「命こそ宝」「隣人を愛せ」。この言葉を一人でも多くの人に伝えていくことが何よりも大切なのだと私は思います。

今回のユースでは、神様との繋がりを感じる機会が沢山ありました。私は沖縄で沢山の貴重な経験を積むことができ、多くのことを学び、新たな人々と出会い、交流関係を持つことができました。それはひとえに神様の導きがあったからだと思ひます。私は沖縄に行くまで、この先の人生について考えていました。しかし、今回の沖縄のユースプログラムを終えて、私はこの先の人生についての答えを得ることができたと思ひます。神様は時に試練を与えますが、それと同時に必ず良い方向に導くチャンスも与えてくれるのだということを今回のユースで感じる事ができました。



直井 一樹(那須塩原教会)

最初はこのプログラムに参加するか凄く迷いましたが、勉強と経験が得られると思い参加しました。

参加してみての感想は、とても良い経験と残酷な現実、目を背けては行けない現実、そして同じユースである者達とのかけがえのない時間を過ごすことができ、自分の財産になりました。

僕は最初は沖縄に沢山米軍基地ができていて、戦力強化に繋がっていいんじゃないの？と思っていました。しかしそれは大きな間違いで、また沖縄戦のような悲劇を繰り返そうとしているんじゃないかと痛感しました。

会議の内容はとても暗い話ばかりでしたが、ユース達との交わりの時間はとても素敵な時間でした。この沖縄で初めて出会った私達ユースがプログラム最終日の夜にみんなで1つの祈りを創る時間は、少し大変でしたがとてもかけがえのない時間でした。

沖縄の今の現状があるからこそ、出会った私達。この出会いには意味があるのだと感じました。この沖縄で過ごした5日間はとても大切な時間でしたが、私は飛行機のフライト時間を勘違いして乗り遅れてしまい、5日間+1日過ごす事になってしまったが、おそらくこの1日もなにか意味のあるものであり、結果この沖縄で過ごした6日間は自分の財産になりました。



穂刈 歩実(竜ヶ崎教会) 「岡本厚さんのお話を聞いて」



第1回ユースプログラムが行われて、9条世界宗教者会議にも参加しました。そして、岡本厚さんの講演『沖縄から学ぶ一戦争時代の中の「命こそ宝」一』を聞きました。「命こそ宝」という言葉は忘れないでいたいと思いました。命は大切なことはあたり前のことです。でも、沖縄から学ぶという意味で決定的で重要な言葉とのことでした。沖縄戦争だけが日本本土での戦争で唯一の地上戦で、私が知っていたのは、広島、長崎に原爆が落とされたとか、東京で大空襲があったとかでした。沖縄と本土の戦争体験は全く違うことも知ることができました。住民が戦争に動員されたり、守ってくれるはずの日本軍が住民の虐殺や自決の強要をしたりするなどにも驚きました。

みんなが戦いを拒否して、世界中で戦争がなくなって平和で安心して暮らせるようになったらいいと思います。「命こそ宝」とは、「平和こそ正義なのだ」、ということを忘れないでください。

柳澤 空翔(竜ヶ崎教会)

私は今回、沖縄でユースプログラムに参加しました。ユースプログラムは3泊4日で行われ、自分を含め若い人たちと一緒に9条世界宗教者会議に参加して、沖縄について学び考えるという内容でした。実際に沖縄にあるガマやアメリカ軍の基地を見たり、講演を聞いて、平和について考えたり、ユースのみんなで祈りを作成したりなどとても貴重な体験をしました。

その中で私は何度も同じこと考えました。それは本当に自分は何も知らないんだなということでした。私は沖縄について学ぶということは、今回が初めてではなく、今までも何度か学ぶ機会がありました。

ですが、今回の内容は今までのものとは大きく違いとても濃い内容で沖縄の過去と今をちゃんと知ることが出来たと感じました。

ですが、このまま学べて良かったで、終わらせてはいけないと思います。なぜならまだまだ、沖縄について知らない人がたくさんいるからです。今回聞いた話は沖縄の人だけが考えるものではなく、日本全体の問題として考えるべきです。なので今回のプログラムで聞いた話を自分の中で終わらすのではなく、もっと周りに発信していこうと思います。



引率：池田 純平(村上教会) 「“恐れ”を克服する出会い」

沖縄で開催された第8回9条世界宗教者会議のユースプログラムに参加してきました。2月20日(火)から始まる会議を前に、19日(月)に沖縄に入り、関東、関西と現地から集まったユースメンバーと合流しました。金井創牧師(佐敷教会)によるコーディネートでメンバー11名が互いの名前を覚えてからのスタートでした。

翌日、会議に参加する多くの人々が、カトリック安里教会に集まり、数台のバスに分れて現地研修をしました。各所で金井牧師が説明をしてくれる言葉を英語や韓国語に翻訳しながらの大移動でした。辺野古のキャンプシュワブのゲート前、嘉手納基地が見える道の駅かでな、沖縄戦に巻き込まれた朝鮮人を追悼する恨の碑を回りました。

私は中でも今回初めて訪れたチビチリガマが深く印象に残りました。ここに避難していた人々は、鬼畜だと教えられたアメリカ兵による残虐な仕打ちを恐れて、肉親同士による集団自決をしました。しかし、同じく読谷村にあるシムクガマでは、ハワイからの帰国者2人がアメリカ人は捕虜を殺さないことを知っていたため、全員無事だったそうです。アメリカ兵を知らなかった人々は、戦時中、日本兵が中国や朝鮮の人にどれだけ酷いことをしてきたか見ているが故に自分たちも同じことをされるという“恐れ”が、この悲惨な出来事を引き起こしたと教えてもらいました。

夕方から行われた岡本厚さん(元岩波書店社長)の基調講演でも“恐れ”について触れる場面がありました。岡本さんは、学生時代に出会った阿波根昌鴻さんや編集者として関わった大江健三郎さんとの出会いもあり、沖縄に関わり続けてきて、現在は『台湾有事』を起こさせない・沖縄対話プロジェクト」という活動を行っています。その活動を通して

知り合った人から「日本に蔓延している中国脅威論が実際に起きるとは思えない」との日本と大陸との意識の差に衝撃を受けたそうです。私の周りにもこの中国脅威を根拠とし軍拡を認めるような人が多くいるため、私も衝撃を受けました。岡本さんの「脅威は、鏡に映った自分の姿に過ぎない」という言葉が心に残りました。チビチリガマでの凄惨な事件を引き起こした“恐れ”が、今、日本で、世界に蔓延り、非戦による平和を蝕んでいます。

プログラムの2日目は、カトリック安里教会を会場に全体会が行われました。この日は、各国から宗派・宗教を超えた9条や平和への想いが述べられました。私は中でも、2011年から済州島の海軍基地に反対する運動をしてきたソンガンホさんの話に注目しました。ソンさんは、9条は「平和の光(beacon)」「戦争と軍国主義のない世界を望む人類の願いの証」とこの平和憲法に希望を見出しています。そして、脅威が蔓延する現在でこれを守るためには、守ろうと主張するだけでは足りず、2つの課題を伝えています。それは、「日本国民が持っている戦争に対する恐怖をなくそうとする努力」、「9条に該当する平和憲法の制定を近隣諸国に促すこと」です。前者は受け取り方によって誤解されそうな文言ですが、ソンさんは「この国は戦争を恐れて戦争に備えるという矛盾に陥っている」と言います。戦争への“恐れ”を戦争で拭い去るのではなく、平和憲法を広めることで克服していくための行動です。ソンさんは済州島や沖縄諸島、台湾で平和キャンプを行い、平和大学を設立してヨットでの航海を平和運動家たちと開催しています。“若者は会議に来ない”と100日間船で講義したそうです。出会い、繋がりを持つことが平和を作ることなのだと教えてくれました。

私は、職場の行事参加があり、このセッションが終わると帰路に着きました。最後までいることができなかったのは残念でしたが、沖縄に来て、平和を求めている人、9条に希望を見出している人が決して一人ではないという繋がりを感じることができたのは何より嬉しいことでした。日々に追われたり、世間の右傾化の波に押し寄せられて自信を失い、非戦をともに語ることをしていませんでした。

国は“恐れ”を植え付け、戦争への道を進めようとしています。出会いや連帯は、平和憲法9条を脅かす“恐れ”を克服させ、国による軍拡といわゆる憲法改正への抵抗する最大の手段だと改めて思いました。そして、見えざるものへの単純な畏怖（恐れ）ではなく具体的な信仰を持つ宗教者だからこそ、“恐れ”を克服するための方策を持つことができているのではないかと特に今回は感じました。

今回、共にユースプログラムに参加してくださった皆さん、コーディネートし、案内をしてくださった金井牧師、関東教区宣教部の飯塚牧師に感謝します。久しぶりに会った人々とも、初めて会う方々とも名前を呼び合い、食事をする時はとても平和な時間でした。ソンさんは「平和のために働きましょう」と述べられていました。今、地元に戻り、ここで得たものを共有することで少しでも平和へと繋げていきたいと思っています。



ユースの祈り

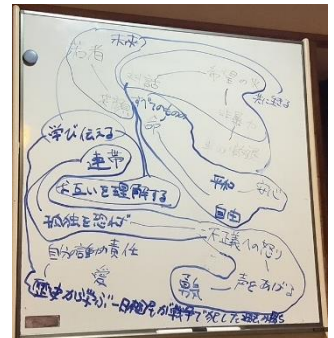
私たちは今までの歴史と今負わされている痛みを知ることができました。沖縄でたくさんの血が流され多くの犠牲者がでました。人間が戦争で犯した過去の過ちがあったことを理解し、その非を認めることができますように。

戦いで獲得できる平和などないということを現在の沖縄の状況から学びました。たくさんの方がそのことを知りますように。学ぶことを通してデマに踊らされることなく、“恐れ”の正体を見抜く力を培うことができますように。

たとえ理解も共感もできない人たち、武力行使を正義と考える人たちであってもその人たちと共に生きる勇気を持てますように。そして暴力に対して非暴力で対抗し、対話によって暴力によらない世界をつくることができますように。不正義に気づき具体的な声をあげ、暴力なしで解決できるようになりますように。その為に必要な知恵や勇気を持ち、そして連帯し励ましあい各地での活動が孤立することなく続けていくことができますように。暴力によらない平和を追い求める希望をもっていいんだということを私たちが信じ、これからの歴史を一人ひとりが担っていくことができますように。この信念こそが希望の火だと思います。その火の一つひとつは小さいかもしれませんが、それらが合わさって大きな火となれますように。そして次世代に繋ぐため、私たち自身が見聞きしたことを少しずつでも発信し、戦争をさせないような平和を私たち一人ひとりからつくり出せますように。

世界中の人たちが笑顔で暮らせますように。

すべては、あらゆるいのちが安心して生きることのできる自由が奪われない為に。



3日間を振り返り、気づいたこと・学んだことなどを
出し合い一つの祈りを作りました。

